

# NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.32

岡村の最近の注目ニュース  ビジネス予備校近況レポート  B-EAT 会活動報告  What's up?

2024年03月

# 2024/03

いつ始めても  
遅すぎることはない。

## 「人は危機感で目を覚まし、 夢で動く」

日経平均が最高値を更新し、NISA や DC で含み益を享受している方は、  
久しぶりに明るい日本を感じているのではないか。



長年のデフレにより日本には、“とりあえず静観”（しても物価が上がらないので損失なし）の癖が染みついてしまっていた。

企業も個人も”行動せよ！”と急き立てる、昨今の相場や環境変化は、「時間の価値」を思い出させる点で意義深い。

株が上がった下がったという結果だけを見て一喜一憂しては、頭の筋トレにならない。EAT で運用を学んだ皆さんは、うわべだけのニュースを鵜呑みにせず、「さていったいなぜ株はあがったのか？」と自問し、次の一手を考える材料にしているはずだ。相場自体は、円安や中国リスク等に助けられる面も大きく、いずれ調整もありうるが、変動を下支えする構造的変化は確実に起きている。私は2018年末に、生徒の皆さんに配布する日本のビューを変えた。

決め手となったのは二点、終身雇用の放棄と外国人財への機会拡大による「ゆでがえる日本」からの脱却だ。当時の経団連会長による、終身雇用はもはや維持できないとの宣言はインパクトがあった。一括採用の活動解禁時期を示し合わせることで取り止めに、なし崩し的に通年採用への転換を導く深遠なる意図が見えた。また、移民についても、定住外国人と名を変えて受け入れやすいムードが作られ、技能実習生制度の変革が導かれた。人口減少への対応と産業構造変化に対応する雇用の流動化に手がつけられたのだ。

タイパ重視の若手が、令和の黒船として変革を迫るので、転がり始めた玉はスピードを増していくだろう。

さて雇用流動化時代に個人が幸せに生きるための肝は何か？

・スペシャリストの定義を明確化し自らの働き方の質を高める

ジョブ型雇用を、“一つの仕事をずっと続けて専門性を身につければ安泰”と誤解してはいけない。みなさんはかつて消滅した仕事を覚えているか？例えば、華やかなりし為替ディーラーの仕事は、ユーロ誕生と電子取引導入により瞬く間に消滅した。先を読む私の友人は、早くから為替ディーラーに必要な能力をいくつかの要素に分解し、「マクロ経済を予測する力」を自身のコアの強みとして関連分野に転じ、いまま活躍している。あなたの仕事の専門性はいかなる能力要素で成り立っているか？

・活きた勉強法を確立する

”とりあえず資格”の姿勢もそろそろ卒業だ。タイパが悪い。もしあなたが社長なら、採用に際して気になることは何か？組織への貢献実績のはずだ。試験や資格は手段であって目的ではない。「最終顧客に価値を提供する」目的がぶれない人財は、面談で瞬時に識別がつく。将来の自分（&ファミリー）の幸せのために、目的から逆算して効果的な勉強法を確立しよう。まさに世代を問わず、リスキングが成長の肝だ。

構造変革期には、巨艦ほどルール改訂が遅れる。変化についていけない企業も個人も淘汰されていくだろう。みなさんには、変化を先読みし、数年後には導入されているであろう人事評価基準の進化版に照らして、自分の働き方や磨き方を定めて欲しい。自らの考えで動く人財には自信と勢いが備わり、持続的成長が可能になる。

本日寄稿くださった三樹さんは東京クラス卒業生であり国語の教科書の権威である明治書院の社長だ。学びの原点とは何か？を常に考える正統派として信頼している。

## 「教育」業界の立ち位置

株式会社明治書院

代表取締役社長  
三樹 蘭 氏



少子化の影響が最も顕著にあらわれている業界の一つが教育業界であることは、おそろしく異論がない。学生確保のため、あらゆる校種で、公私問わず、「魅力的な教育」を発信し続けている。これからの「教育」は一体どこに向かうべきなのか。「未来を創る財団」社会・教育開発研究会に参加し、「教育フォーラム in 中津・大分」で発表したことについて報告したい。

「教育フォーラム in 中津・大分」

本研究会は、二〇二四年二月二十三日「教育フォーラム in 中津・大分」を開催した。冒頭の磯山友幸理事長の開会

挨拶では「なぜ『教育フォーラム』を大分県中津市で行うのか」といった経緯が明かされ、開催地である中津市の奥塚正典市長の挨拶は、財団に寄せる期待に満ちていた。基調講演として、静岡大学・上野雄史教授が、キャリア開発の考え方や技術革新・DXの現状を、著名な企業や開催地・中津の企業を例に紹介して、聴衆の関心を一気に引きつけた。

報告書「学びによる日本の再構築 — これからの学びと人材育成 —」

その上で、私が発表した報告「学びによる日本の再構築」について、詳細はぜひ「未来を創る財団」ホームページのアーカイブ配信でご確認いただきたいが、ポイントは次の三点だ。

- ①生産性と学び（教育）はつながっている
  - ②人的構造の転換が必要
  - ③その実現のために、あまねく全員が学びを続ける必要がある
- いずれも、経営層あるいは教育業界の人にとっては、目新しい情報ではなかったと思う。正直に言えば、もう少し踏み込んだ内容にできたら、という思いもあった。しかし一方で、生産性も教育も、さまざまな立場のステークホルダーが存在する話題であり、

一部を切り取って深掘りすることの危険性もある。そんななか、報告の最後にも補足したが、提言した内容をすでに始めている企業や団体もたしかに存在する。どの話題もこれからさらに深まっていくものと思う。

また、続くトークセッションでは、企業家の福山敦士さんと磯山先生の対談がとても面白かったという事は、本紙の読者の皆さまならばおそらく容易に想像していただけるだろう。このセッションだけでもアーカイブを視聴する価値があると思うのでオススメしたい。

社会・教育開発研究会のミーティング

本研究会では、二〇二二年二月より、ほとんど隔週でミーティングを重ね、報告書をまとめてきた。その過程で集められたデータ、記事、レポートは百点以上にのぼる。研究員も、さまざまな立場から参加されていて、時には、外部からゲストをお招きして、貴重なお話をうかがう機会もあった。私は参加できなかったが、研究会としてシンガポールのスキルズフューチャー事業を実際に視察したことは、その後の議論に大きな影響を与えたと考えられる。

EATビジネス予備校での縁から、今回このような機会をいただき、いろいろなことを勉強させていただいた。特に、訪問した中津では、フォーラムに参加してくださった中津市民の多さに驚くとともに、中津のために精力的に活動する、市長をはじめ教育委員会の方々や企業人の皆さまから熱い想いを聞かせていただき、大変貴重な経験となった。

これからの「教育」

立場上、どうしても「学校」における教育に目を向けがちだが、人間に知的好奇心がある限り、「学び」は強制されるようなものではないだろう。おそらくすべての人が子どもの頃に一度は感じたのと同じように、「もつと知りたい」と感じるからこそ、「学び続ける」一番の早道なのだと思う。私自身、そうした好奇心を忘れることなく、主体的に学びに向かいたい。同時に、自分の子どもや次世代である学生たちには、学ぶ楽しさを伝えていきたいと思う。



トークセッション時の様子

## What's up?



Christine Shao

EAT ビジネス予備校  
東京クラス (8 期生)  
ステートストリート信託銀行  
Senior Auditor

2018 年クリスマス時期に、観光で六本木ヒルズを訪れ、東京シティビューで青空の下の虎ノ門方面のビル群を眺めていました。その一年後に虎ノ門ヒルズで働くことになって、また不思議な巡り合わせで一年間 EAT 六本木会場に通って講義を受けていました。

岡村先生と 8 期同期の方々からいただいた温かいお言葉と的確な助言で、人生最大のピンチとも言える局面を乗り越えられ、ポジティブなマインドセットとレジリエンスが如何に大事なのか学んでいました。その中で事業部門から内部監査部に飛び込み、新しいことに挑戦し続けています。この場を借りて岡村先生と 8 期同期メンバーに感謝申し上げます。

**EAT** 株式会社人財アジア

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階

[TEL] 03-6300-6460 [Mail] info@eat-star.asia

特別寄稿および What's up? に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問合わせのほど、お願い致します。